

上余白 50mm

# 卒業研究

中央揃え



MS 明朝、22 ポイント

中央揃え

左余白  
40mm

右余白  
25mm

MS 明朝、14 ポイント  
でスペース 8 個分

MS 明朝、14 ポイント

40mm

平成 26 年 (2014 年) 度 入学

甲南女子大学 人間科学部

総合子ども学科 ○○ゼミ

○○○○○○○番 ○○○○○○

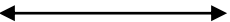
書き出しを  
そろえる

下余白 70mm



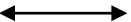
上余白 25mm

最近では、従来からの「学力」の教育に加え、社会性や道徳性などの「心」の教育の必要性が叫ばれていることは、今さら言うまでもない。あいつぐ暴力犯罪や、不登校、いじめ、ドラッグ濫用などに見られるように、子どもの心の問題が深刻であることは、くり返し指摘されてきたところである。今後も、どのように子どもの心の問題に対処するか、どのように心の教育を行なっていくかについて、われわれは十分に議論し、研究していくべきであるし、実際に、そうなるであろう。心の問題は、21世紀の教育における重要課題の1つであるはずである。



左余白 40mm

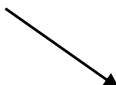
子どもの心の問題というとき、必ずヤリダマに挙がるのがメディアである。テレビゲームやインターネットなどをはじめとするマルチメディアはとくに風当たりが強い。こうしたマルチメディアが実際に悪影響を及ぼしているのかは、それはそれで研究する意味のある問題である。しかし、もっと生産的であるのは、それが悪影響を及ぼしているかどうかを気にすることではなく、どうすれば、その悪影響を避けながら、マルチメディアの持つ有効性を最大化できるかという視点である。




右余白 25mm

マルチメディアは、新しいテクノロジーであり、これによって、今まで不可能であったことが多くできるようになったはずである。それゆえ、使い方さえ適切であれば、マルチメディアの利用によって、以前よりは効果的な教育が一心の教育についてさえも一可能になっているはずである。マルチメディアが不向きな教育課題があるとしても、それについては、従来通りの方法を使えばよいのであり、このテクノロジー自体は、教育方法の選択肢を広げており、益の大きなものである。それゆえ、マルチメディアが子どもの心の問題を引き起こす元凶であり、そのすべてをダメとするような議論は、そうした有効利用の可能性までも殺すものであり、生産的ではない。くり返しになるが、大事なのは、マルチメディアは悪影響を及ぼすとして最初からそれを否定的に考えるのではなく、どうすれば、それを十分に有効利用できるかを考えることである。

ページ番号  
(フッタは下から 20mm)



1



下余白 70mm

## 総合子ども学科 卒業論文について

### <書き方>

1. 原則として、コンピュータのワープロソフトを使用すること。
2. 用 紙：A4・縦向き
3. 書 式：1 ページにつき、横 40 字×縦 30 行。余白は別紙参照。  
(表紙も含めて、別紙で示した余白はあくまでも目安とする。)
4. 枚 数：上記書式で 10 枚以上（手書き 12,000 字以上に準ずる）  
※必ずページ番号を入れること
5. ファイル：卒業研究は生協で販売されているファイル（113 円・税込み）に綴じる。  
※年度ごとに色が異なる。同学年は同じ色。  
※今年度は「緑色」購入の際は、生協カウンターで「総合子ども学科の卒業研究表紙ファイル」と申し出ること。  
※詳細は後日、総合子ども学科コモンルームに掲示。必ず確認すること。

### <提出について>

※提出日時は下記の **2日間**です。遅れないように注意してください。

提出日時：2018（平成 30）年 1 月 11 日（木）・12（金） 9 時～17 時

提出先：人間科学部事務課（5 号館 1 階）